



うさぎだより

中野区議会議員●無所属

佐藤ひろこ

【事務所】〒164-0001中野区中野1-33-9 TEL/FAX.3368-9107 【区議会】〒164-0001中野区中野4-8-1 無所属控室 TEL.3228-8874
http://homepage2.nifty.com/usagidayori/ mail:usagidayori@hotmail.com 編集・発行:住民自治をすすめる政策研究会



昨年は事業仕分けなどが話題を集め、国の政策に対する期待が高まりました。しかし、「政治と金の問題」の不透明さは許せません。政治の改革はできるのでしょうか。中野区では、国に先駆け政策の改革を進めてきています。「事業仕分け」をさらに進

めた「外部評価制度」で、市民参加の行政チェックを行ない、また、区民活動センターへの転換など、「新しい公共づくり」に向けての実践が始まっているところ。少子高齢社会と厳しい経済情勢の中、だれもが安心して暮らせる社会を作っていくためには、市民の力と行政が連携した「新しい公共づくり」が欠かせません。先を見据え、地域から、区民のための政策を発信していきます。

地域から「新しい公共づくり」をしっかりと

2009年第4回定例会一般質問

外部評価委員会への参加を

中野区は「外部評価制度」を7年前から導入し、専門家と公募区民委員で構成される外部評価委員会が、全施策の評価を行なっている。公募委員として区民が評価に参加でき、委員会は公開されている。外部評価結果は毎年議会の決算資料として提出され、施策の見直しや改善につながっている。外部評価委員会では、評

価委員と区職員が、熱心に厳しいやりとりを重ねていて、一見の価値がある。

佐藤 傍聴者が少ないのが残念だ。傍聴のPRや、インターネットによる公表など、外部評価委員会の広報を積極的に行うべきだ。

区長 外部評価委員会のPRに努めていきたい。結果について、毎年度区報やホームページで公表をしている。行政評価に関するアンケートを毎年度実施したい。

政治をきれいに!



女性の参政権獲得のために戦い、理想選挙を実践した参議院議員市川房枝さんが亡くなってから29年目。政権は交代しても、相変わらず金の問題にまみれた政治家が国政の実権を握っている状況は変わらない。今一度、市川房枝さんが掲げた理想を学ぶべきだ。市川房枝記念展示室のある婦選会館をコミュニケーション政策研究会のメンバーで訪ねた。

市川さんの目標の一つが「民主主義政治及び二院制度の確立のため金権腐敗の選挙と政治を粛清し、選挙制度の改善、政治資金規正の強化等に努力する。」だった。政治を変えろと言っていた総理大臣と政権与党の幹事長は、自らの政治団体の収支報告書を正しく記録していなかった。秘書のせいにして責任を取ろうともしがほんとうに実現できるのだろうか。

政治資金規正法

第一条 この法律は、政治資金が民主政治の健全な発達を希求して拠出される国民の浄財であることにかんがみ、その収支の状況を明らかにすることを旨とし、(途中省略) 2 政治団体は、その責任を自覚し、その政治資金の収受に当たっては、いやくも国民の疑惑を招くことのないように、この法律に基づいて公明正大に行わなければならない。

2010年度予算案 大幅な歳入減

一般会計予算 歳入 964億円
(09年度より63億円減)
主な歳入減
特別区税 287億円
(09年度より26億円減)
特別区交付金 302億円
(09年度より23億円減)

どうなる?これからの障害者制度改革

4月3日(土)午後2~4時
中野勤労福祉会館大会議室
お話 金 政玉さん
(内閣府障がい者制度改革推進会議政策企画調査官)
手話通訳・要約筆記つき

中野区基本構想と10か年計画改定

中野区は、税収の落ち込みに対して、年度間調整のために積み立ててきた財政調整基金を取り崩して対応する。しかし、その基金も2年分くらいしかない。これから厳しい財政運営がいられる。

政府の財政運営方針も定かではなく、中野区の基本構想と10か年計画の改定に必要な財政フレームを示すことができていない。そのため、第4回定例会に出された基本構想改定議案は、継続審議となった。

佐藤 後期高齢者医療制度や障害者自立支援法が変わるのは3年後。10か年計画の第2次改定を進めているが、国の制度が大きく変わった時、第3次10か年計画の改定が必要だ。今回は基本構想を10か年計画と年次を合わせるために改定するが、今後、基本構想も5年ごとに改定するのか。

区長 第2次10か年計画も、区を取り巻く社会経済情勢が大きく変化した場合に改定する。基本構想は次の5年後には当初の制定から10年を迎えるので、全体を見直す本格的な検証と幅広い議論に基づく改定を行うことが望ましい。

厳しい財政への対応は？

佐藤 区民にとって必要な施策を実行していくために、財政調整基金が重要。国の制度改正などに合わせた柔軟な予算編成ができる「複数年度型予算」も必要になってくる。今後の財政運営の考え方は？

区長 国全体の経済状況が悪化しており、数年間大変厳しい財政運営が予想される。財政調整基金の年度間調整に使える残高なども勘案しながら、複数年度の予算編成を行っていきたい。

中野区はワーキングプアが多い!!

「中野区における貧困量の測定と貧困の性格」という1972年の調査研究によると、高度成長期であるにもかかわらず、中野区の保護基準以下の子帯の出現率は、26.2%という驚くべき高さだった。保護基準以下の世帯のうち、高齢や母子、障害など特別の事情を抱えていない世帯が8割あり、働く能力がありながら最低生活基準以下のワーキングプアが多いという

分析がされている。

佐藤 37年前の調査で、すでにワーキングプアが多数存在していた。稼働年齢の単身者が多いことや、流動人口が野区に悪化している。中野区における貧困の現状の調査を、検討してみようか。

区長 中野区は東京都の中にある自治体で、中野区だけのデータという、全体の把握には弱い部分がある。独自に調査をする考えはない。

離職者等支援の総合相談窓口がオープン

区役所2階の相談窓口で生活困窮者への住宅・生活相談と週1回ハローワークの職員による就労相談が開始された。1ヶ月半で約900件の相談があり、住宅手当を支給された人は約100人。

10か年計画の第2次案には、「生活困窮者を対象とする総合的な生活相談支援の充実」が打ち出された。

佐藤 11月30日ハローワークで、失業者の職探しと生活支

援を一括して行う、ワンストップ・サービスが試行された。中野区職員も新宿のハローワークで相談にあたった。どのような状況であったのか。

区長 新宿ハローワークに職員2名を派遣した。その結果、中野区の住宅手当や生活保護に関する相談として取り扱った件数は5件。利用者の相談機会の拡大という点では一定の効果があった。

佐藤 中野区は国に先駆けて、失業者等に対して区の窓口で総合的に相談にあたる支援策を打ち出した。区で総合相談窓口を開設する意義は。

区長 区民に身近なところで相談できることが重要だ。住宅相談、生活相談等を中心に、ハローワークとの連携を進めていく方が効果が高い。

聴覚障害者への理解と情報保障を

手話講習会で手話を学んで2年目になる。今回この項目の質問を手話で行った。



手話でこんにちは

佐藤 手話講習会の目的は、手話奉仕員の養成だが、手話を学ぶだけでなく、聴覚障害者への理解を深めることがで

きる。手話は聴覚障害者にとって大切な言葉。音が聞こえないために、聴覚障害者は不利益を蒙ることが多い。聴覚障害者への理解を深めるために、区職員の研修を行った。手話講習会への参加をすすめてはどうか。

また、区の窓口には「聞こえにくい方には筆談します」と書いた表示板を置き、聞こえにくい方々が安心して利用できる環境を整えてはどうか。

区長 障害者への理解を深めるための研修は窓口職員の職員などを対象に行っていく。障害のある人とのコミュニケーションについての意識を高めることができるように、全職員が必ずこうした研修を受けられるようにする。

区の窓口には耳マーク表示板を今年度中に設置し、安心して相談や手続が受けられるようにする。



障害？障がい？障が？

うさぎだよりでは「障がい」と書いてきた。政府は「障がい」と書き始めた。社会に「障害」があるのだから、ひらがなで書くのはおかしいと障害当事者からの意見。当事者は「障害」と使っている。「障害」と表記することに。

中野をフィールドワーク

立教大学大学院生の方々と、しよに中野区をフィールドワーク。住民参加や街の活性化策など、住民や民間の力を活かした取組について、様々な方々にインタビューした。外部評価委員会に公募区民委員として参加された方々のお話から、市民参加の意義と課題をあらためて認識した。また、区民活動センターへの転換について、取材した区民の方から、積極的な取り組み意欲を伺うことができた。これからの地域社会を豊かにするキーワードは、区民の力に潜んでいる。

商店街活性化策の調査では、中野駅北口近辺をフィールドワーク。中野ブロードウェイは、生鮮食料品から、いわゆるおたくグッズまで、多種多様なお店がひしめきあっている。



「のせすぎ！中野ブロードウェイ」という本が出版されたばかり。この本を読めば探索がさらに楽しくなる。中野ブロードウェイ商店街振興組合の青木理事長さんと金子事務局長

さんからお話を聞く。7年前から取り組んできた「里・まち連携」のお話は興味深かった。人と人、地域と地域を結ぶために、関東近隣の地方都市とさまざまな交流を行ってきている。災害協定も結んでいる。

中野北口昭和商店街にある「立ち飲みパニパニ店主の長谷部さんのお話を聞く。中野チャンプルーフェスタの仕掛け人で実行委員会の委員長。人と人をつなぎたいと、商店街の路地をエイサーで盛り上げようとしている。

中野の再発見。それは、都市における人と人をつなぐ「コミュニケーションの再生」だった。地域や商店街の活性化に取り組みキーパーソンの方々から大切なことを教えていただいた。

中野駅周辺・西武新宿線沿線まちづくり特別委員会から

西武新宿線の地下化決まる

中井駅付近から野方駅付近までの鉄道を地下化する連続立体交差化計画が決まる。これで7カ所の開かずの踏切がなくなる予定。

中野駅北口周辺が大きく変わる

「中野駅地区整備基本計画案」が出された。2年後に、中野駅北口を北側に向けて改札口を広くし、北口前のバス停を中野サンプラザ前に仮に移す。北口に降りた人々が区役所方向にスムーズに移動できるように、中野通りをまたぐデッキを作る予定。現在の北口広場は、自転車駐輪場を広げ、バスの回転スペースと、西口改札を新たに作るための工事資材などが置かれる場所となる。2年後大学などが開設され、乗降客が増える状況に

野駅北口を北側に向けて改札口を広くし、北口前のバス停を中野サンプラザ前に仮に移す。北口に降りた人々が区役所方向にスムーズに移動できるように、中野通りをまたぐデッキを作る予定。現在の北口広場は、自転車駐輪場を広げ、バスの回転スペースと、西口改札を新たに作るための工事資材などが置かれる場所となる。2年後大学などが開設され、乗降客が増える状況に

対応できるように整備を急ぐ。北口周辺の商店街にも影響が及ぶことが予想される。新しく整備される地区と従来

厚生委員会から

「地域支え合い ネットワーク推進条例」の主な考え方

*すこやか福祉センターの職員が対象者宅を訪問調査。24時間365日の連絡体制を確保。

の商店街が共に大きく発展できるように、人の動線や安全をしつかり考えて、計画策定してほしい。

*70才以上の単身者や75才以上の高齢者世帯、希望する障害者の見守り用名簿を町会などへ交付する。個人情報保護の条件を条例で定める。

6月の第2回定例会に提案される予定。区民への周知や、関係者との十分な協議が必要だ。

これでいいの？
「中野区動物の愛護の促進及び適正な管理に関する条例」の主な考え方と項目

第1回定例会で条例が提案される予定。かわいそうな野良猫が増えないように、餌やりを行い不妊手術に取り組みNPO団体からは、条例に反対の声が出ている。厚生委員会でも条例制定に疑問の意見が多い。罰則規定などがあり、このままでは納得できない。



佐藤ひろこの収支報告

2009年11月～2010年1月

	11月	12月	期末手当	1月
収入				
報酬	588,200	588,200	1,321,979	588,200
費用弁償	33,000	6,000	-	21,000
支				
税金	75,210	-116,354	195,664	75,210
年金・保険	178,460	178,460	99,075	178,460
活動費	71,379	52,376	248,000	77,967
出				
積み立て	33,000	6,000	-	21,000
残	¥263,151	¥473,718	¥779,240	¥256,563

*議会に出席すると1日につき3,000円の費用弁償がつく。なくすべきだ。区への返金は法的にできないので、積み立て、区外の団体に寄付をしている。今回は被災障害者を支援する「ゆめ風基金」に寄付。

<http://homepage2.nifty.com/usagidayori/>

11月11日
「住民の支え合い」を
厚生委員会で視察

和歌山市の認知症の人の見守り支援を行う「あんしんメイト」と、大阪府守口市のさんあい広場「さた」を視察。守口市の「さた」は、地域の人が運営委員会をつくり自主的に、高齢者のふれあいサロンや昼食会を実施している。市は、小学校の教室を改修して提供し、備品や光熱水費を負担するが、運営にはタッチしない。この日は「ふれあいサロン」の日で、運営委員の皆

さんがコーヒーやトーストを訪れる高齢者の方々に提供していた。住民の力が地域福祉を担っている。

12月12日
こどもがのぞむ
社会的養護を考える大会

NPOアン基金プロジェクトが主催。児童養護施設で育った人、里親家庭で育った人、養子縁組をして育った人、里親の実子、里親、児童養護施設職員と、多様な人たちによる円卓会議を傍聴。別室で行っている会議が、

1月9日
重度の障害を持つ
子ども達の教育

会場のスクリーンに映される。はじめて聞く当事者達の声。様々な立場の方々の思いを知ることができた。もつと里親が増えることが必要だ。

ある。新しい都立永福学園では、教師の数が減らされヘルパーが導入されたが、授業に支障があると聞く。トイレ介助も食事介助も教師にとって大事な教育の時間。コミュニケーション教育は重要である。

1月23・24日
障害者の自立と
政治参加をすすめる
ネットワークin豊中

障害のある自治体議員が中心になっていいるネットワークの勉強会に参加。国の障害者制度改革や、豊中市の障害者雇用団体設立の取り組みについて学習した。各地の情報交換も行った。大牟田市では障害者の入院時のヘルパー派遣

制度ができた。熊本市では医療的ケアが必要な子どもが地域の学校に通う場合、学校支援員が派遣されている。大阪府でも医療的ケアが必要な子ども達が地域の学校に通う場合、看護師を派遣する制度ができた。豊中市では、医療的ケアを必要とする子どもをはじめ障害のある子ども達が、地域の学校に通うのが当たり前だそう。関西ではノーマライゼーションが進んでいる。

佐藤ひろこの活動日誌から

- 11月
- 19 市民政策提案フォーラム (参議院議員会館)
 - 21 おでんくらぶ (医療的ケアが必要な子どもと親の会)
 - 23 商店街活性化について立教大学院生と中野フィールドワーク (中野ブロードウェイ商店街・昭和街道商店街など)
 - 27 補正予算内示
 - 29 中野1丁目町会防災講座
人権を考える講座第5回「地域で共に」吳さんのお話
 - 30 臨時議会/障害者防災委員会
- 12月
- 1~3 本会議 (佐藤ひろこ一般質問)
 - 5 ベビーサロン中野クリスマス会
ユニークダンスを楽しむ区民の集い
講座「身近な人のDV被害」
 - 6 障害者政策全国研究集会
 - 7・8 厚生委員会
 - 10 タッチの会
中野駅周辺・西武新宿線沿線まちづくり特別委
 - 12 こどもが望む社会的養護を考える大会
 - 13 若者会で区政報告
 - 14 本会議
 - 15 野村生涯教育センター一般講座
 - 16 指定管理者保育園・中野サブプラザ等大学院生と調査
 - 18 公園ランチ (ホームレスの人の相談)
 - 19 「障害者の生活・教育支援」研究会
 - 21 障害者防災委員会
 - 22 区民活動センター運営準備会委員の方にインタビュー
 - 23 中野1丁目町会役員の方々と中野区政について懇談
地域ねこセミナー
 - 24 外部評価制度・公益活動支援について大学院生と調査
- 1月
- 8 中野1丁目町会新年賀詞交換会
 - 9 おでんくらぶ (医療的ケアが必要な子どもと親の会)
 - 12 ひとり親家庭の支援について調査
 - 13 「絆を結び直す～生活困難者支援へのNPOの挑戦」講演会
 - 15 区職員労働組合新春旗開き
立教大学院コミュニティマネージメント論講義参加
 - 17 中野消防団始式
 - 18 障害者防災委員会
 - 19 当初予算内示
 - 20 中野区消費者団体連絡会新年交流会
中野区歯科医師会と懇談会
 - 21 中野駅周辺・西武新宿線沿線まちづくり特別委
 - 23・24 障害者の自立と政治参加をすすめるネット勉強会
 - 26 市川房枝記念会の婦選会館を訪問
 - 27 都立永福学園肢体不自由教育部門を訪問

3月27日(土)
午前10時~11時
旧桃が丘小学校
主催：障害者防災委員会

